

のだ ふじあと
野田の藤跡

はっしょうち
のだふじ発祥の地

(所在地) 玉川二丁目二 春日神社境内

【碑文】

(正面) 野田の藤跡

(右側面) この地の藤は古来有名であつたが、惜しくも戦災で焼失した

むらさきの 雪とやいはん 藤の花

野にも山にも はいそかわる

(裏面) 市制施行七十周年記念

昭和三十六年三月 大阪市建立



春日神社には、「藤伝記」や證如上人の「御書」が残されてる。

平成七年(一九九五)「のだふじ」が区の花に指定され、区民の藤の育成が盛んになっている。



【碑文】 大阪市顕彰文化財指定

野田藤

六百年の昔、二代將軍足利義詮はこの地に
来遊し紫藤を眺め^{なが}あまりの見事さに

いにしえの ゆかりを今も むらさきの

藤なみかかる 野田の玉川

と詠^よんだ事は既に史実に有名である。

又太閤秀吉を始め天人俳人の藤をたたえ
る歌が多く残されており「吉野の桜か

野田の藤」とうたわれた名所となった 花は

形良く紫の色あくまでも上品で最盛期には一米^{メートル}

をこす花房が咲き誇るとしてゐるされており、その頃

美しい大きな池を囲んで老木若木をとり交え

た藤が^{あた}辺りの木立にまつわり絡^{から}んでとても

美しい眺めであった。時経るに従い池は次第

に縮小されてその面影をとどめるのみとなった。

玉川に ゆかりの藤の 一面影を

ここにとどめて 後にのこさん

野田藤保存会

平成五年五月吉日

贈 大阪福島ライオンズクラブ



春日神社前の藤棚



春日神社西側の白藤大神と顕彰説明板



新なにわ筋に面する影藤大神



新なにわ筋の史跡案内